

令和元年度

ウィンテージタウン“連携”縁卓会議

～「人」「組織」がつながい、

地域の力を育てましょう～



令和2年3月

西神ニュータウン研究会

開催主旨

西神ニュータウンでは、2012年より5回にわたり、「ニュータウン人・縁卓会議」を開催し、地域と大学・学生との交流を図ってきました。

- ・「ニュータウンからヴィンテージタウンへ」～新しい地域文化の創造・まちを住み熟(こな)す～
ニュータウン人・縁卓会議2012in西神ニュータウン（平成24年10月）
- ・「ふるさととはニュータウン！」
魅力アップ人・縁卓会議（平成26年3月）
- ・「おしょうゆ貸して！」と言えるまちに
ニュータウン魅力アップ人・縁卓会議2014（平成26年11月）
- ・「学生と地域の連携により、すべての世代がいきいき活動する街に！」
学生・地域連携縁卓会議（平成29年2月）
- ・「学生と地域の連携事例を通じ、連携の力をそだてましょう」
学生・地域連携縁卓会議（平成30年3月）

様々な形の「連携」により、いきいきとしたまち「ヴィンテージタウン」を目指してきました。

今回第6弾は、支援組織との交流を通じ、「ひと」「組織」のつながりにより、「地域」の力をそだてることをテーマに開催します。

目次

開催主旨	1
第1部 連携活動の発表	2
○地域×学生 地域活動の歩み―「学園まちピカ大作戦」とともに	2
神戸市外国語大学 学園都市連絡会議	奥村紗貴さん 久龍茉央さん 岩本政則さん
○実験力	3
神戸芸術工科大学 NPOコミュニティかりば	櫻井ノマドさん 山下哲平さん 佐野正明さん
○兵庫県立大学の明舞団地プロジェクトの10年―ゼミ活動から授業プログラムへの発展	4
兵庫県立大学	西川祥子さん
○中高生の居場所づくり事業～大学生ボランティアの関わり～	5
流通科学大学 NPOユースプラザ西2009	藤崎美夕樹さん 芝 和子さん
○高塚山におけるアーバンキャンプの取り組み	6
神戸市立工業高等専門学校 神戸学園都市高塚山を愛する会	守山大河さん 内藤富夫さん
○思春期ピアカウンセリング	7
神戸市看護大学	長船瑞樹さん 佐藤友里乃さん
○神戸みらい学習室について	8
神戸市職員有志 神戸市外国語大学	小林正則さん 根井 渉さん
○かりば住まいを考える会などの活動支援―景観まちづくり講座からの展開	9
いきいき下町推進協議会 NPOコミュニティかりば	三輪康一さん 佐野正明さん
第2部 学生、地域、大学、支援組織、行政関係者によるトーク	10

第1部 連携活動の発表

□地域×学生 地域活動の歩み

一「学園まちピカ大作戦」とともに

神戸市外国語大学 奥村紗貴さん 久龍茉央さん

学園都市連絡会議 岩本政則さん

○「まちピカ大作戦」は、地域と学生の共同活動です。

- ・今回は、学園都市連絡会議の「美しい町大作戦」として実施。
- ・ごみ拾いを通して、地域交流の活性化、外大と地域住民との結びつきを強めることができました。
- ・3～5人一組のチームで対抗し、ゴミを拾い、1時間の間に集めたごみの量と種類で得点を争う競技で、32チーム（136人）、ボランティア（地域30人、外大32人）総数198人が参加しました。

○「学生さんと楽しく過ごせてよかった」（参加者の感想）

- ・「ゴミ拾いも本気になれば楽しめると、子供に伝えられてよかった」
- ・「イベントの最後のランチおいしかった」等、大好評でした。

○「まちピカ」は4回目で、学園都市の地域行事と位置づけられる。

- ・過去3回は外大が運営、今回は、学園都市連絡会議の行事「美しい町大作戦」の集大成として位置づけることになりました。地域と外大が、共同して運営し、実施日、財源など何度も打ち合わせをかさねて、準備しました。
- ・その結果、当日の地域住民のボランティアが大幅に増え、当日の急な変更もスムーズにできました。

○「地域と関わり、地域を知るいい機会になりました」

（奥村さん 久流さんの感想）

- ・いろいろ心配したが、「楽しかった」といわれて良かったです。
- ・準備から地域の方と関わり、地域を知るいい機会になりました。

〈以上 奥村さん、久龍さん〉

□学園東町、西町の協働活動が実施でき、大成功〈岩本さん〉

- ・学園都市全体の行事がなかったのですが、過去3年は、外大の提案に、学園東町、西町が参加している学園都市連絡会議が協力する形で、実施することができました。昨年は実施できなかったが、この大会を継続するか否かを地域で話し合い、その結果、地域行事として継続することに至った経緯があります。
- ・「まちピカ」は大成功です。①学園都市連絡会議の「美しい町大作戦」に位置づけることができ、東町、西町の交流が継続できました。
- ②過去3年間の経験の蓄積を学生から出してもらいながら学生・地域と一緒に考えながら実施できました。「まちピカ」という名称も学生が提案してくれました。
- ③こどもから年寄りまで参加して非常によかったです。

□最初は、外大から提案しましたが、これだけ拡がり、地域のみなさんに、喜んでいただけるようになり、よかったです。

〈外大 木場さん〉



□実験力

神戸芸術工科大学 櫻井ノマドさん 山下哲平さん
NPO コミュニティかりば 佐野正明さん

○「実験」は、未来に可能性を作ります。

- ・小学校時代好きな授業は、理科と図工。理科は再現性があり、そこがたのしみです。図工は、自分で一回作って、再現性がない。これも面白い。この経験が実験に繋がりました。
- ・実験力を邪魔するものは、大人の事情です。発想を変えて、大人の力を自分の味方にすればいいと気づき、一緒にやりましょうと呼びかけて実験を進めています。

○今までの実現した「実験」－三宮商店街の「3Fストリート」

- ・三宮商店街の中2階デッキにストリートを実現しました。ほっとした空間として評価されてました。

○今回提案している実験－ユニバードームを「ひろば」に。

- ・今までは、芸工大だけのチームで実践。今回は、学園都市の地域とのコミュニティを形成し、つながりを持ちながらものづくりしたい。
- ・ユニバードームは、おもしろい立地で、電車、タクシーが行きかい、賑わい施設もあり、人が行きかう空間です。ドームでは、カップルがいて、学生がミーティングや、ダンス練習をしています。学校帰りに時間を過ごす場所、待ち合わせの場所に使っています。このドームで過ごす時間を、豊かにしたいと考えます。
- ・ひろばのデザインコンセプトは、既存の空間を活かしながら豊かな広場をつくりたい。近年、外国には、様々な試みがあります。
- ・ドームに隣接するカフェと協力して、カフェ内とひろばをつなぎ、ドームの柱の間に、テーブル、チェア、ベンチを置き、豊かな空間を創りたいです。
- ・今後は、12月までに、資金を集め、3月から製作開始、夏完成が、目標です。

○「こどもの学び場づくり」(D-ラーニング)にも参画

- ・西区役所、NPOかりばが主催する「こども学びの場づくり」(D-ラーニング)にも参画しています。私たちは、デザイン教育ワークショップを実施し、かりばのこどもの創造力育成に参画しています。

○資金はクラウドファンディングを活用

- ・クラウドファンディングに挑戦し、ただ単に資金確保だけでなく、多くの人から資金を集め、仲間を増やしてプロジェクトを進めたい。お金を提供するという形での活動参画です。近々、OM こうべ(ユニバードームの管理者)に、提案をする予定です。

□学生が持つ魅力づくりの着眼点、実験力を、地域として生かしたい。

＜佐野さんコメント＞

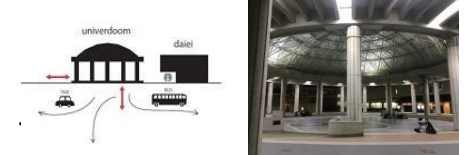
- ・地域では、学生の持つ「若さ」や「専門的な知識・技能」が必要とされる場が増えていきます。
- ・具体的には、こどもたちの学びや遊びの世界で果たす役割や地域の居場所や広場の魅力づくりの役割です。



3Fストリート



ユニバードーム



D-ラーニング



クラウドファンディング



□兵庫県立大学の明舞団地プロジェクトの10年 ～ゼミ活動から授業プログラムへの発展～

兵庫県立大学 西川祥子さん

[明舞団地の概要]

- 典型的なオールドニュータウン ・入居開始 1964年
- ・人口約2万人ピーク時の約55% ・高齢化率 42%

[第1段階 ゼミ活動・研究・交流の深化]

○2009年経済学部の「まちなカラボ」サテライト教室がオープン

- ①地域という生きた教材で学ぶ ②まちのシンクタンクとして提案
- ③学生との交流による活性化活動 などを実践。

○地域のイベントへの参加から、学生主体の企画実践へと進化

- ・学生がただ参加する段階から——「夏祭り」
- 学生と地元と一緒にやる段階から——「クリスマスフェスタ」
- ゼミ生自身が活性化のため何かしたい段階へ
- 「フリーマーケット」「わくわくカブトムシ作戦」の実践

○調査研究—「周辺を含めたまちづくりの視点」

- ・明舞団地の生活圏は、開発当初の陸の孤島から、大蔵谷、明石駅周辺をはじめ広い範囲に広がる。周辺地域を含めたまちづくりの視点が必要と思われます。

○学生が県住に居住、自治活動参加などの社会実験的な試み

- ・空き家店舗を利用した駄菓子屋、レンタルボックス等の社会実験。活気がでて、子どもや住民の居場所にもなりました。
- ・学生が県営住宅に住み、自治会活動の支援やパソコン教室を実施。

[第2段階 学部横断授業プログラムのフィールドへ]

○2017年より県立大の学部横断授業「コミュニティプランナープログラム」(CP)のフィールドとなる。

- ・CPプログラムとは、地域コミュニティの創生を担う人材の育成を目指すプログラムであり、
- ・内容は、「地域を知る」「地域で学ぶ・考える」「地域で実践する」学生自身が地元住民、役員、NPO、商業者などと交流し、どうしたら活性化に繋がるかを考える授業です。
- ・異なる学部の学生で構成される学生チームで学びます。異なる学部の教員チームが支える特徴があります。

○様々な企画を地域での実践

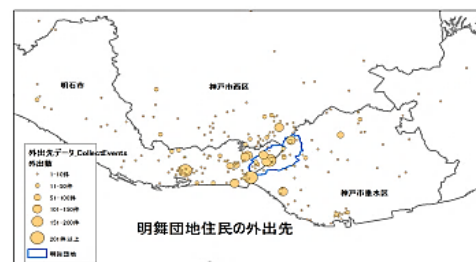
- ・「リア充ツアー」「おいでよ。ママの手作り工房」など地域で企画、実践しました。
- ・「リア充ツアー」は、シニア世代自らが作るオリジナルの旅を、みんなで考える活動で、その企画を支援しています。

○プログラム終了後、学生が自主的に活動継続

- ・プログラムの修了後も、リア充ツアーの活動支援の継続や、活動資金確保のため明舞祭でコーヒー販売など実践し、現在も、支援活動を継続しています。
- ・県立大学としても、学部横断の研究プロジェクトを発足し、経済学部ゼミの地域活動・研究を継続していきます。



生活圏の拡がり調査



駄菓子屋



パソコン教室



CPプログラム

●明舞での実践のテーマ

- [1] シニア世代のwell-beingの追求
- [2] 住み続け・住み替えを支援するビジネス

●各班の企画

- A班: リア充ツアー～みんなで作るオリジナルの旅～
- B班: めいまい保健室認知度向上プロジェクト
- C班: ハンドマッサージで空いた時間を有効に
- D班: 使って！使って！フリースペース☆
- E班: 明舞コンシェルジュ
- F班: おかたづけっこ

おいでよ。ママの手作り工房



リア充ツアー説明会 明舞祭でのコーヒー販売



□中高生の居場所づくり事業

～大学生ボランティアの関わり～

流通科学大学 藤崎美夕樹さん
NPO ユースプラザ西 2009 芝和子さん

○児童ボランティア部ALL-INとは？

- ・ALL-INは、流通科学大学で、2008年に設立され、主に、こどもを対象にしたボランティアクラブです。「すべてが集まってひとつになる」という意味で、こどもの活動、地域のイベントの企画、運営に参加しています。
- ・近年、明石こども食堂、被災地支援などに活動を拡げています。特に、「ユース西」は、運営から参画するなど力を入れています。

○「ユースステーション西」の中高生の居場所づくりに参画

- ・「ユース西」は中高生が自由に気軽に立ち寄れるスペースの提供を始め、自主的な活動ができる居場所づくり事業を実施しており、「夢企画」、くらぶ活動、サークル活動、自主事業などの活動を実施しています。
- ・「夢企画」は、中高生（青少年隊）自身が考え出し企画・運営する活動で、高校生自身がテーマを選びみんなで話し合う「みんなで茶話会」や「百人一首大会」などを実施しています。
- ・くらぶ活動は、クラフト・お菓子づくりなどのくらぶで、小学生の活動を中学生が支援します。

○青少年スタッフ（大学生）は青少年隊（中高生）の夢企画と一緒に活動。

- ・中高生、大学生、大人がそれぞれの役割をもって活動しています。
- ・「青少年隊」（中高生）は、自分の「したいこと」を夢企画として実現に向けて取り組む。
- ・「青少年スタッフ」（大学生）は、青少年隊が夢企画をするにあたって、一緒に企画・運営を行う。
- ・「大人スタッフ」 青少年隊、青少年スタッフのサポートを行う。

○大学生は意見を伝えやすい存在、それぞれ育つ。

- ・スタッフは大人が多く、年令が離れているので、大学生が、青少年との間に入ることで、意見が伝えやすい。
- ・大学生がいることで、新しい発想がでたりして活気が出る。
大学生も中高生も意見を言い合い、それぞれ育っていきます。

○大学生にとって「ユース西」は、「居場所であり成長の場」です。

- ・青少年スタッフとして事業に関わることにより、
 - ①企画力が身につく
 - ②コミュニケーション能力の向上
 - ③他世代間交流ができる
 - ④仕事を任せてもらうことで自信が付く
- ・大学生はイベント当日だけでなく、企画からかかわって、中高生と活動と一緒に作り上げていくのがおもしろいです

□大学生は中高生と共に育っている。 <ユース西 芝さん>

ALL-INのみなさんは、自主的に参加し、友達を誘って仲間を増やし、自分自身で考えて中高生の支援をし、中高生と共に育っている。これを大事にしたいです。ぜひ、ユース西を見ていただき、大学生のみなさん参加していただきたいです。

こども食堂



募金活動



2019年度 ユースステーション西 案内

項目	募金事業	青少年ボランティア部	ユースプラザ西
募金	お菓子作り	クラフト	イベント
お菓子作り	お菓子作り大会	クラフト大会	イベント
クラフト	クラフト大会	イベント	イベント
イベント	イベント	イベント	イベント

サークル活動
 中学生・高校生が登録でき、音楽室や多目的ホール、会議室を利用できる

夢企画
 ユースステーション西を利用している中高生自身が考え出し企画・運営するイベント活動(青少年隊)

自主事業(イベント)
 季節に合わせたイベントや、定例提供事業で行っている活動の大会などを実施

くらぶ活動
 お菓子作りくらぶ・手芸くらぶを実施し、イベントでは模擬店や体験コーナーなどでブースを

定例提供事業
 フリースペースや多目的ホール、フットサルコートなどの定例提供活動

みんなで茶話会



百人一首大会



お菓子づくり



クラフトづくり



イベント



それぞれの役割



大学生にとっての「ユースステーション西」とは・・・

居場所であり成長の場

□高塚山におけるアーバンキャンプの取り組み

神戸市立工業高等専門学校 守山大河さん

神戸学園都市高塚山を愛する会 内藤富夫さん

守山氏は、当テーマを卒業研究として取り組まれ、その経過を今回発表された。

○背景

里山が失われるとどうなるか

→自然環境の荒廃、生物の生息域の消滅や生物種の減少

里山は山間部だけでなく都市部にも存在します。

○目的 ー都市部の里山の利活用

神戸市西区の高塚山をフィールドに、地域住民が都市部に残存した里山を主体的に利活用するための方策について研究します。

○先行研究 ー子供時代の里山体験が有効

「子ども時代の里山体験が大人になってからの里山保全行動意欲を高める。特に、自然とのふれあい体験は有効である」という先行研究があり、この研究を踏まえて「子供に対する自然体験の場を用意する必要がある」と考えました。

○研究の方法と内容 ー「アーバンキャンプ」という社会実験に基づいた理論的な考察を行う。

経緯・昨年行われた高塚山の活用方策を考えるシンポジウムにて、「キャンプ」の提案があった。

- ・高塚山は都市公園法に基づき管理。原則キャンプは禁止であるが、「地域主導の子供の環境教育の社会実験」という位置づけで、高塚山を管理する神戸西建設事務所より許可を得る。

内容・神戸高専高田研究室、高塚山を愛する会、小東山手子供会の三者協同で実施。神戸西建設事務所、周辺自治会が協力。
・子供達は、火を使ってご飯を作る、木登りするなどの体験をたのしみ、学生は、キャンプリーダーとして社会実験に参加。子供の状況や参加者のコメントを記録した。

○今後の予定 →里山利活用の理論的モデルの提示

- ・「社会実験」を通じた地域主導の子供の自然体験を継続するための条件を整理し、
→活動体制の明確化
→必要な手続きや自然体験のプログラム、効果をマニュアル化
- ・他地域でも参照可能な里山利活用の理論的モデルを提示します。

□子ども会など地域のつながりを作ってください、感謝です。

＜内藤さん＞

□ニュータウンに背を向けている里山を、「愛する会」が切り拓かれた。それが、学生の貴重な活動・研究のフィールドになりました。こちらこそ、感謝しています ＜神戸高専 高田先生＞



特別シンポジウム

ニュータウンの自然と生きる

ー学園都市・舞多間・小東山・神和台でのこれからの暮らし方ー

わたしたちはニュータウンでの暮らしのなかで、何を大切にしながら、何を未来に残していけるでしょうか？
このシンポジウムでは、こどもからおとなまで、神戸のニュータウンに住む人びとが、自然と共に豊かに生きていくための方法について話し合います。

特別シンポジウム



研究の流れ

- ・2018年6月 高塚山の活用方策を考えるシンポジウム
- ・2019年5月 卒業研究テーマ決定
- ・2019年6月 西建設事務所打ち合わせ
- ・2019年7月12日、13日 学生プレキャンプ実施
- ・2019年8月 西建設事務所第二回打ち合わせ
- ・2019年10月 キャンプ直前打ち合わせ
- ・2019年10月20日 アーバンキャンプ実施



□思春期ピアカウンセリング

神戸市看護大学

長船瑞季さん 佐藤友里乃さん

○思春期ピアカウンセリングは、中高生の仲間と“生”と“性”について

「いっしょに、悩んで、話し合う。」という活動です。

- ・「ピア」とは、仲間という意味で、わたしたちは、思春期にある中高生のことを年齢に近いこともあり、ピアだととらえています
- ・中高生は、人間関係や進路、恋愛などさまざまな悩みを抱えながら生活しています。先生や親には、相談しにくいところもありますが、大学生には、中高生と年齢が近く経験や考えも近いので、話しやすいようです。そのため、大学生が、「ピアっこ」として中高生と同じ目線に立って、中高生の仲間として一緒に考え悩むことで、中高生が人生のゴールを見つけ、実現することを支えることを目的に、活動を行なっています。
- ・大学生は、約 30 時間の養成講座を受講し、思春期ピアカウンセラーの資格を持って活動しており、昨年度は神戸市から社会分野での活躍、業績を認められ「神戸ユース賞」をいただくことができました。

○活動は、「学校教育」、「ピアルーム」、「啓発活動」などです。

- ・活動は、①学校教育として、高校、中学校では学級単位のグループワークでピアカウンセリングを行っています。2019 年度は 3 校で実施しました。②地域活動としては、名谷でのピアルームです。③市や地域と連携してエイズ予防や DV 予防の啓発等です。

○「ピアルーム」は、地域に拠点を置く。

- ・ピアルームは、地域での活動で、毎月 1 回名谷のユースプラザ KOBE・WEST で行なっています。
- ・内容は、ピアカウンセリングや性に焦点を当てた映画の上映会などです。ピアルームには、名谷駅付近の中高生が来てくれていますが、お菓子やジュースを置いて、誰でも気軽に声をかけられるように雰囲気づくりをしています。
- ・実際に、進路や人間関係についての相談、時には流産など性に関わる相談を受けることがありますが、相談でなくても、普段の生活や部活の話を楽しそうにしてくれる人もいます。

○中高生「すっきりしました。」ーピアっこ(大学生)「ピアの力になりたい」

- ・中高生の声として「ふだん友達にできない話ができよかった」「話を聞いてもらえて少しスッキリした」などがあります。
- ・また、活動を行なっている大学生は、自分たちが中高生だったときのことを振り返りながら話を聞き、色々な悩みを抱えて生活している中高生がいることを知るとともにもっとたくさんの中高生の力になりたいと感じています。

○中高生たちの自分らしく生きられる居場所づくりを。

- ・地域の力を育てる視点として自分たちができることは、地域で生活する中高生の力を育てることだと考えます。そのため、エデュケーションで知識を広めるだけでなく、現在 1 か所で行われていないピアルームの活動を、これから幅を広げて、中高生たちが自分らしく生きられる居場所づくりができるように頑張っていきたいと考えています。

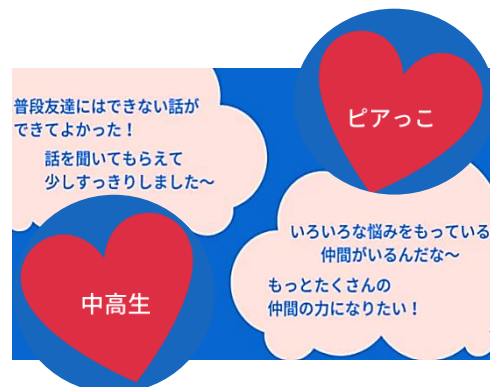
ピア学校教育



ピアルーム



デートDV・エイズ啓発活動



□神戸みらい学習室

神戸市職員有志 小林正典さん
 神戸市外国語大学 根井 渉さん

○神戸みらい学習室は、教育格差などの事情がある中学生に

「無料学習支援」と「夢ゼミ事業」を実施。

- ・2017年4月に神戸市職員有志が集まり、8月に、ユニティにて週1回開校しています。
- ・地元大学生などが全員ボランティアで講師を務めており、外大、県立大、神大の学生が在籍しています。

○活動理念は、「すべての子どもに等しく教育の機会を」です。

- ・貧困の連鎖を断ち切り、親の経済的理由からのこどもの教育格差を防ぎたいと考えています。近年は、貧困以外に不登校、発達障害なども増えています。
- ・学習室でも、母子家庭や不登校などの中学生が多数参加しています。

<以上 小林さん>

○中学生は、学習支援により成績アップ。学生は講師をすることで、様々なことを学び、成長する。

- ・学習支援は、学校の宿題から入試対策まで幅広く対応しており、受講カルテをつくり、講師間で共有するなどの工夫をしています。
- ・3年生でも、1年生の文法からさかのぼり学習し、特訓、模擬面接も実施し、模擬試験の偏差値が上がるなど成果がでています。
- ・講師は、子どもの支援に関わりたい、ボランティア経験したいなどそれぞれの目的で、多くの大学生が参加している。
- ・それぞれの得意分野、専門分野をいかして学習支援をおこなっており。例えば、外大生なら英語テストを企画・実施するなど、バラエティのある講師陣で、効果的な授業をおこなっています。
- ・学生は、活動から様々なことを学びステップアップしています。私は、中学生に、英語を教えるむつかしさを学び、かみ砕いて教えることを学びました。

○「夢ゼミ」にも力をいれる。--勉強する意味を気づかせる。

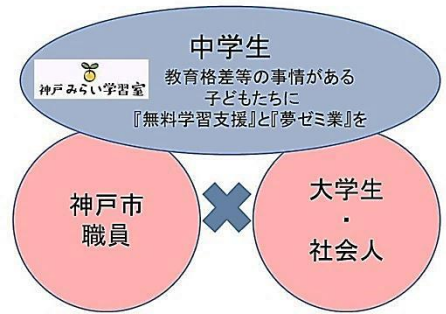
- ・学習会の初めに、「夢ゼミ」を開催し、大学生から、留学などの大学生活、勉強することの意義、就活体験、自分の夢を提案しています。
- ・中学生からは、「勉強が自分の可能性を拓けてくれると気付いた。」「悩んだときは、1人で抱え込まず、まわりの人に相談してみようと思った。」等のコメントを多くいただいています。

<以上 根井さん>

□地域のみなさんの力をいただきながら活動を広げたい。

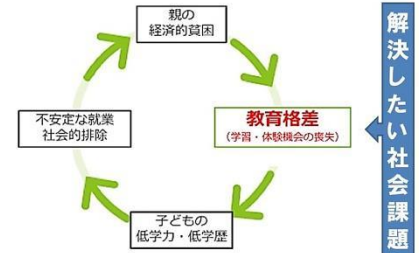
- ・塾に通えない様々な家庭があります。学生の力でどのようなことができるか頑張りたい。
- ・又、地域のみなさんの力をいただきながら活動を広げたい。

<代表 佐々木さん>



活動理念 「すべての子どもに等しく教育の機会を」

<貧困の連鎖を断ち切る>



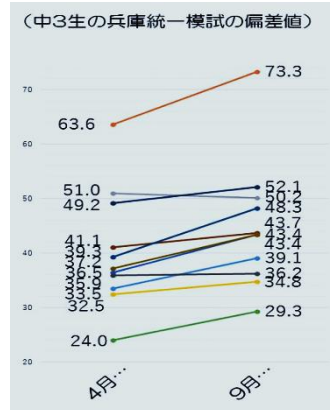
2017年4月 神戸市職員有志(任意団体)を設立

2017年8月 学園都市校(西部拠点) 開設
 2018年8月 本山校開設(東部拠点)

2018年10月 神戸学習支援協議会 設立(市内7団体)
 2019年10月 湯浅誠講演会(共同研修会)

そして、2020年度に向け、3校目の開設を検討中

	市職員	ボランティア講師 (大学生等)	受講生 (中学生)
開校時 (2017年8月)	2名	約10名	10名
3年目 (2019年11月)	8名	約40名	43名



□かりばすまいを考える会等の活動支援

いきいき下町推進協議会 三輪康一さん
NPO コミュニティかりば 佐野正明さん

○「いき下協」とは、まちづくりを推進する専門家集団です。

景観まちづくり講座で、地域の担い手の育成を目指します。

- 大学の先生、建築士会をはじめとする建築・まちづくり専門家、地域団体、神戸市・区役所のまちづくり部局等で構成。
- 2001年より、景観まちづくり講座を開催。2018年、「ニュータウンのまち空間の魅力」をテーマに、西神ニュータウンのかりば地区で、NPOかりばと西神NT研と共催で実施しました。

○まち歩きやグループ話し合いから「かりば住宅地像」を提案

- かりば地区の住民のみなさんで話し合い、①時間ともに、重厚な景観がオープンな景観に変わることの確認、②かりばの課題、魅力の抽出、③狩場地区の住宅像の提案などを導き出しました。
- 提案は、「ガレージでもちつき」「オープンガーデニングコンテスト」「かりばガイドブック」など実現できそうな提案です。

○「すまいづくりを考える会」を立ち上げ、活動を更に展開

- 2019年になり、景観だけでなく①高齢者のすまい、②空き家の問題、③住宅地景観まちづくりなども検討しようという機運が生まれ、「かりばすまいづくりを考える会」が生まれました。
- 今後は、かりばの住民を中心にNPOかりばといき下協、神戸市などの関係機関と連携して進めようとしています。

○空き家活用の活用アイデアコンペを実施

今後、かりば地区での具体的な動きにつなげたいと考えています。

□地域の課題が拡がる中、知識を持つ専門家との連携が必要です。

＜佐野さんコメント＞

- 地域では、専門家集団の持つ知見や技能が必要とされる場が増えており、ハード・ソフトを取り混ぜたまちづくりの仕組みが必要になっています。そのためには、すまいづくり、福祉、ITなどの専門家などとの連携が特に必要です。

景観まちづくり講座

景観まちづくりの「担い手」の育成

景観まちづくり講座

景観まちづくり実践講座

基本的な講義構成
+
対象地域の特性にあわせた内容
(180分/回)

まち歩き+WS
&
交流会
(提案)



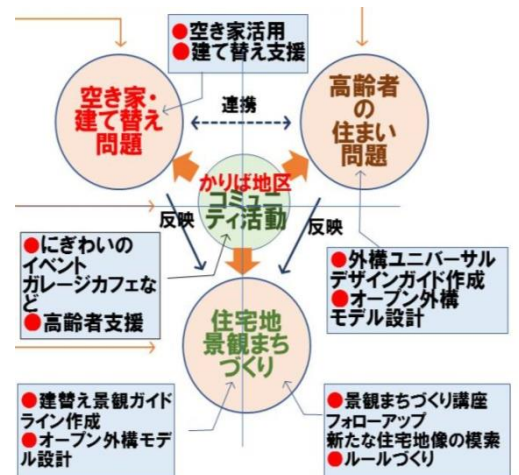
敷地内での魅力発見 共有空間での魅力発見



オープン外構と景観への参加 タウンハウスの豊かな共有空間



生活や住み手のスタイル表現 ちょうどいいCOMMON広場



かりば地区の住宅地像を構想する 第2班提案

空き家活用デザインアイデア募集

ガレージの活用

- ガレージを芝生にする
- ガレージで地蔵盆を飾る
- 近所の人と餅つきをしたい

家のグリーン

- オープンガーデンコンテスト
- 花いっぱい相談会

魅力アピール

- NT名産は家子持たせる
- おかしな物をおかしな場所に飾る
- 買物に誘う
- 物置を手に取りやすいようにする
- ガレージの活用アイデアを相談

公園をもっと活用

- コーヒータイム
- 住民の野菜収穫物マルシェ

居場所づくり

- 集会所
- 自由な居場所
- 周辺に集まる
- 家で集まる

住宅の活用

- NT路地つくり
- 2分割の道
- 空き家を新しい用途で活用
- 学生シェアハウス受け入れ
- 中古住宅、DIY、安組

用途の多様化

- 近くにおいしいパン屋さん
- おっさんパブカフェ

空き地利用

- 空いた健康な公園
- おっさんコミュニティ

2. 学生、地域、大学、支援組織、行政関係者によるトーク

□人が集まるプロジェクトを積み重ねることで、継続的に活動がつながる。人もつながる。

- ・継続的活動も、もちろん重要ですが、目的と期限を決めるプロジェクト型の活動もあります。学生も1年ならやる気になるし、初めての人も参加しやすい活動です。このような人が集まるプロジェクト型活動を積み重ねることで、結果として継続的に活動が繋がります。
- ・それと、成果が出ないときは、やめるということも必要です。成果がでるまでやるのは、しんどいということで、人が集まらない側面もあります。人が集まることを大事にすることで、活動がつながっていきます。(神戸高専 高田先生)

□地域のニーズに沿った連携活動がつながり、活動全体が深まっていく

- ・まちピカでは、半年間携わる中で、地域の方とのつながりが強まり、関係が深まっていきました。そこから、次のステップとして、こちらの独りよがりではなく、地域のニーズに沿った連携活動が次々と加わり、連携活動全体がふくらみ、深まっていけば、なおいいと思います。今ちょうど、学生市民救命士の活動を、地域と共同できないかという話が持ち上がりつつあります。(外大 木場さん)

□衣川西区長――「大学を地域につなぐことは重要。区役所も模索したい。」

- ・西区は6大学1高専があり強みです。学生には、創造力、行動力などがあり、この力を地域につなぐことは重要です。区役所もどう関わるか模索したいと思います。
- ・みなさんとも一緒に考えて、地域力をアップすることに力を注ぎたい。

◇最後に、これまでの情報を、情報バンク等の形で残したい。

このような「つながりの場(縁卓会議)」を継続しましょう。

<文責 橋本>



令和元年度 第6弾ヴィンテージタウン連携縁卓会議
～「ひと」「組織」がつながり、地域の力をそだてましょう。～

開催日時 2019年(令和元年)11月23日(土) 14:00～16:30

会場 神戸研究学園都市大学交流推進協議会(ユニティ)
2階 セミナー室(3)
(神戸市西区学園西町1丁目)

主催 西神ニュータウン研究会

共催 神戸研究学園都市大学交流推進協議会(ユニティ)

後援 神戸市西区役所